

平成26年度

練馬区立光が丘第八小学校

【 算数科 】

	指導の配慮点 (授業規律・発問・板書・個別指導・ノート指導など)	観点別の授業改善の視点			
		関心・意欲・態度を 向上させるための手だて	数学的な考え方を 向上させるための手だて	表現を 向上させるための手だて	知識・理解を 向上させるための手だて
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・(授業規律)チャイム着席ができるように、児童に繰り返し指導し、学習規律を確立する。 ・(板書) 本時の単元名と課題を板書し、課題をつかませる。 ・(教材提示)全員が見えることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活に生きる、児童の興味関心のもてる問題を提示し、児童の意欲を喚起する。 ・題意を明確にすることで、問題解決に進んで取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題理解のために、問題場面を教具や図等で表す活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートは見開き1ページを使い、1時間分をまとめられるようにする。 ・ノートには、課題、自分の考え、友達の考え、まとめ、練習の順で書くことを指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決に必要な用語、公式、概念は、画用紙や模造紙にまとめ、いつでも掲示できるようにしておく。 ・レディネステストで、児童の実態を把握する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・(ノート指導)自力解決する時間を十分に確保する。(自分の考えをもたせる)問題解決の際、前時までの既習事項を思い出して考えるように指導する。(絵や図、表、言葉・式などを使って考える)出てきた解決方法の中から、今後の学習の参考にしたいと思うものを視写させる。 ・振り返りの時間を設け、学習して分かったことなど自分の言葉で表現できるようにする。 ・(評価) 簡単な自己評価を取り入れる。 ・(授業形態)友達と教え合い、意見を交流するために小グループ学習の場を設定する。 ・(板書) 黒板・短冊・画用紙等に、異なった解決方法を提示し、学級で共有化した上で話し合いに入る。 ・(授業規律)友達の話をよく聞くように指導する。(疑問・同感・異議など友達の考えに対する自分考えを持たせる。 <p>算数的活動を多く取り入れた授業計画を立てる。 特別支援を要する児童に対しては、その児童に必要な支援計画に基づき、個別に指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の解決法のよさを教師が認め、意見を発表しやすくする。 ・机間指導では、短く言葉かけをしたりして、個々の意欲を引き出す。 ・自分で考える活動にできるだけ取り組ませ、主体的に学ぶ意欲をもたせるようにする。 ・友達同士の相談の時間を設け、教え合いや考えの交流をさせる。 ・算数に対する意欲と自信をつけさせるため、計算技能の反復練習をすすめる、基礎・基本の定着を図る。 ・少人数指導を取り入れ、課題解決のための環境と時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困難に直面したとき、素朴な方法で解決し、さらに思考を進めるように指示する。 ・抽象的な思考を伴うものでは、必ず具体的なものを用意し、実際に繰り返し使わせ、体験の中から理解させていく。 ・自分の考えをまとめ発表する力を付けさせるために、ワークシートを工夫し、自分の考えを筋道立てて、図や表を用いて分かりやすく書き表せるように指導する。 ・「簡単・いつでも・分かりやすい」という視点をもって、解決したり説明したりする場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟の時間に、個に応じた計算練習に取り組む時間をとる。 ・ノートのとり方のよい例や表やグラフ、図を正しく、ていねいに書いている児童のノートを紹介していく。 ・作業器具は、1人1つずつ用意し、操作活動を全員ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決に必要な知識や理解を確認するようにする。 ・一斉指導の中で、用語、公式等を復習する時間を設定する。 ・知識・理解を覚えようとするより、知識・理解を導き出せるように指導する。 ・概念を確かに豊かにするために、多くの算数的活動を取り入れる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・(ノート指導)ノートのまとめには、本時の学習で分かったことを書くように指導する。 ・(板書) 児童のまとめから、本時のまとめを導き出す。 ・(ノート指導)感想には、学習内容について、疑問・不思議に思ったこと等、次時につながることを書くようにする。 ・(評価) 簡単な自己評価や友達への相互評価(友達のよさ)も取り入れる。 ・(授業構成)今日の課題が解決されたのか確認する。 ・(授業構成)習熟度別グループの良さを生かし、補充的な学習活動や発展的な学習活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な自己評価や友達への相互評価(友達のよさ)も取り入れ、本時の学習を振り返るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめの段階で、数学的思考のよさを気付くような言葉かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童をほめ、よさの確認をする。 ・まとめの段階のノート指導では、何をどのように書けばいいのかを、繰り返し指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをまとめ、本時で何を学んだのかをノートのまとめ、コメントを一言は書くようにする。 ・家庭学習に取り組めるように課題を出し、知識・理解の獲得を図る。